

令和7年8月定例仙台市社会教育委員の会議 会議録

- 日 時 令和7年8月8日（金）10:00～12:03
- 場 所 仙台市役所上杉分庁舎12階教育局第1会議室
- 出席委員 阿部哲也委員、安藤直美委員、齋藤愛委員、高橋美和委員、高橋由臣委員、内藤良介委員、沼里理恵委員、野原昌之委員、朴賢淑委員、松本大委員、若生彩委員（11名出席）
- 事務局職員 伊勢生涯学習部長、武者生涯学習支援センター長、小幡生涯学習課長、加藤生涯学習課主幹、大泉生涯学習課企画係長、岡本生涯学習課施設係長、細川生涯学習課生涯学習係長、生涯学習課生涯学習係金光寺主査、青沼主査、石垣主任、生涯学習課企画係大山主事

○会議の次第

- 1 開会
- 2 挨拶（松本委員長）
- 3 協議事項
- （1）提言書の素案について
- 4 その他
- 5 閉会

○会議の概要

3 協議事項

（1）提言書の素案について

①提言書の素案について協議を行う前に、前回会議録と資料2に沿って、委員長から前回会議の内容について振り返りを行ったうえで、今回会議の目的について説明した。

●説明は以下のとおり。

- ・前回会議では、資料2のとおり、各グループで提言書の中項目と執筆分担を決定していただいた。その分担に基づき執筆していただいた原稿を取りまとめた提言書素案が資料3となっている。なお、こちらの素案については、委員の皆様にご提出いただいた原稿を事務局で一部修正している。
- ・今回の会議では、こちらの素案をよりよいものとしていただくため、グループごとに話し合いを行いながら内容を詰めていただく。

②続いて、本日の協議内容について、資料3と資料4に沿って委員長から説明を行った。

●説明は以下のとおり。

- ・正副委員長と事務局の意見をもとに、素案に加筆することが望ましい項目について資料4に取りまとめた。全般事項として、素案の内容として調査結果の報告が主になっているため、現状の課題を踏まえて提言を述べられるよう、調査をとおして見えてきた問題点を明確に記載することが望ましいと考えている。
- ・資料3の16、17ページの書き方が分かりやすいため、参考までにご覧いただきたい。最初に、現状ではこういった課題があったという旨を説明し、後半でその課題に対し

こういったことが必要なのではないかと提案している。「この団体はこういったことで困っている。他の団体もきっとこういうところで困っていると思うので、こういう支援が必要なのではないか」というように、現状や課題を踏まえた上での提言となる形にすると大変分かりやすいと考える。

- ・さらに、資料4について、各グループの各論の冒頭に、「はじめに」として調査団体の概要を記載することが望ましいとした。素案では、委員それぞれが調査団体の概要を説明していて、内容の重複が見られる。そのため、冒頭の「はじめに」の部分で、調査団体の概要を説明した方が、そのあとの内容がより読みやすくなると考える。
- ・そのほか、地域グループと外国グループのそれぞれにおいて、ご検討いただきたい点も挙げている。地域グループは、「(1) 学び②大人の学び(こどもを取り巻く大人)」と「(2) 居場所のあり方②大人の居場所のあり方」の内容が重複している部分があるため、そちらをご検討いただきたい。
- ・外国グループについては、市が公開しているデータも使いながら記載すること、また社会教育の立場から何ができるかということを特に意識してご執筆いただきたい。
「(1) 学び」について、「①支援する側にとっての学び」「②利用する側にとっての学び」とあるが、まず初めにこどもに関して触れていただくとよいと考える。
- ・さらに「(2) 居場所」に関しては、学校が調査先の一つであったため書きにくい部分があるかもしれないが、社会教育にできることという視点を意識してご執筆いただきたい。加えて、「③外国にルーツを持つ人にとって、居場所とは何か」について、グループの中で議論が行われてきていると思う。外国にルーツを持つこどもにとって「居場所」の定義が曖昧であるという話であったが、空間的な場所について、どういったものを作ればよいのかということに関して、より分かりやすくご提示いただきたい。
「(3) キーパーソン(人との繋がり)」では、こどもの学びに結びつくキーパーソンについてうまく表現していただきたい。
- ・ただし、資料4で取り上げたことは、あくまで一つの参考として捉えていただきたい。
- ・本日の残りの時間は、各グループで素案をご検討いただく。11時半を目途に内容をまとめいただき、グループリーダーから話し合いの状況を発表していただく。
- ・外国グループは、グループリーダーの泉山委員がご欠席のため、若生委員にグループの進行等をお願いしたい。

③各グループで素案の内容について話し合いを行った。

●話し合いの結果は以下のとおり。

〔地域グループより発表：グループリーダー 内藤委員〕

- ・委員の皆様にご執筆いただいた文章において、内容が重なっているところが非常に多く、視察先の内容も含めて繰り返しのようになってしまっているところがある。重複しているところについて、初めは削除することを検討していたが、重複部分をそのまま切り取ってしまうと、どういった経緯でそのような思いを抱くに至ったかが伝わりにくくなってしまうという意見があった。
- ・それぞれの委員がそれぞれの思いでご執筆いただいた文章であるため、単調に削除、結合という作業をするのではなく、なるべく委員にご執筆いただいた文章はそのまま活かしていきたいということになった。

- ・本日の会議冒頭に、各論に「はじめに」を設けるというお話があった。地域グループの素案において、資料3の7ページ、「(1) 学び①こどもの学び」の中で述べられていることに、視察先の概要が多く含まれていた。初めは、こちらに記載されている内容を「はじめに」にそのまま移行させようという方針になったが、こちらの部分は詳細な内容も含んでいるため、「はじめに」の部分が大変長くなってしまい、後に続く文章が読みづらくなってしまったと考える。なるべく委員の書いた文章を活かしたいという意見もあったことから、「はじめに」の部分で、各委員が記述した内容を取りまとめで、提言書のテーマである「こどもを取り巻く社会教育のあり方」について地域でどのように取り組むことができるのかという内容を記載するという事になった。
- ・「はじめに」の部分を先に作成し、その内容を見たうえで、各委員がそれぞれの担当箇所について、文章がうまくつながるよう、「はじめに」に含まれているものと重複する内容を削除、訂正していくという形で今後の作業を進めていくこととなった。

〔外国グループより発表：グループリーダー代理 若生委員〕

- ・重複する部分について、どのように対応するかを中心に議論した。
- ・ただし、「はじめに」の部分はこれから執筆するため、委員の皆様が書いたものを見たうえで、「はじめに」の部分をまとめることになった。
- ・「はじめに」の部分には、概要や、データ、問題点などを明記すると、そのあとの文章に繋がりやすいと考える。
- ・それぞれの項目で、構成について議論した。例えば、「(1) 学び」については、小項目の順番を、①②③ではなく②①③にした方が流れがよいということになった。また、「(2) 居場所」についても、①③②の順にした方が流れがよいということになった。
- ・各委員の担当する箇所の細かいところについては、調査では分からなかった事項が多かった。例えば、外国にルーツを持つ人が仙台市に来て、行政の窓口に行って住民登録等の手続きをするときに、どういった資料やサービスがあるのかについて何も知らないにも関わらず、外国にルーツを持つ人のことについて執筆している状態である。外国にルーツを持つ人の生活に即した現状について、もう少し詳細に調査する必要があると考えている。

〔松本委員長〕 地域グループ、外国グループともに構成をもう少し練り直したということである。地域グループは「はじめに」をまず作成したあと、中間案に向けた修正作業に入るという話であったが、外国グループは「はじめに」を各委員の原稿を踏まえて最後に作成するという事であった。執筆する中で、調査が不足していると感じる部分はあるかもしれないが、そこらは今後の課題というところに少しでも反映していただけるとよいと考える。

④委員長から今後のスケジュールについて説明を行った。

●説明は以下のとおり。

- ・資料5をご覧ください。次回会議は10月を予定している。今回会議での議論を踏まえて修正を行った原稿については、9月1日までに各グループリーダーにご提

出をお願いする。グループリーダーは、自身のグループの原稿を取りまとめて、9月8日までに事務局にご提出いただきたい。委員の原稿集約から事務局への提出までに一週間の猶予があるため、原稿の変更等の調整を各グループにてお願いしたい。各グループから提出された原稿を事務局にて集約・調整し、10月の会議で中間案としてお示しする。その後、12月に最終案という予定で進めていく。

4 その他

事務局より、『第67回全国社会教育研究大会 岩手大会』の案内を行った。

「仙台市社会教育委員の会議実施要領」第4条及び第5条に基づき会議録を作成し、同要領第6条に基づき委員長及び会議録署名人が署名する。

令和7年10月3日

委員長（署名欄） す　　大

署名委員（署名欄） 沼　　理　　恵